

令和4年度 学校法人いわお学園理容美容専門学校西日本ヘアメイクカレッジ 学校自己評価及び学校関係者評価表/令和5年3月17日 学校関係者評価委員会

評価基準 適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや適切・・・2、不適切・・・1

| 項目 | 評価の項目 | 評価 | 自己評価委員会評価コメント | 学校関係者評価委員会の提言 | 今後の改善策 | |
|-------------------------|---|----|--|--|---|---|
| I 教育理念 教育目標 人材育成像 | 1 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。 | 5 | 今年度は、全教職員参加の社内研修で学校長より、新たに採用された教職員も含め、改めて学校の理念・目的・人材像について説明致しました。既存の教職員にはさらに理念・目的が浸透し、新たに加入した教職員に対しても学校の理念、目的に基づいた授業を展開するよう意識づけを持たせることができた。 | パンフレットやホームページへの掲載、学校紹介DVDの製作、個別の学校説明の場等においては、理念や教育目標にも触れ、学生・保護者に伝えるための努力を感じた。 | 学校関係者評価委員会での意見や情報を継続して迅速にカリキュラムに反映させる。 | |
| | 2 学校における職業教育の特色は何か。 | 4 | 生徒には日々の授業で学校の理念を伝えてはいるが保護者等への周知がどこまでできているかは、検証が必要である。 | 昨年度同様コロナ対策で対面や集合での説明会開催が困難な中ではあったが、令和5年度は、コロナ対策も軽減されるため、対応に遅れることなく計画的な動きをおこなってみたい。 | 学校の理念・目的をよりわかり易く、募集パンフレットに掲載したり、学校と生徒・保護者との連絡時に使用するさくら連絡網も活用し折にふれ理念・目的が目につくように情報を発信していきたい。 | |
| | 3 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来像を抱いているか。 | 4 | 今年度は、エステ、アイラッシュやレディースシェーブ、ヘアアレンジの他に男女を問わず若い世代にも浸透している脱毛の授業も追加し、現場で求められ、かつ学生の要望が多い技術を学ぶ機会を提供することで就職機会の増加につなげている。 | | 入学がきまった生徒対象におこなうプレスクール時に学校の理念、目的についての説明会の時間を取り保護者にも同席頂き入学時には生徒・保護者が学校の理念、目的が理解できているような体制を構築する。 | |
| | 4 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構造などが学生・保護者等に周知されているか。 | 4 | | | | |
| | 5 各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。 | 5 | | | | |
| II 学校運営 | 1 目的等に沿った運営方針が策定されているか。 | 5 | 事業計画策定に当たっては会議を開催し、全員で共有するとともに、月次の全体会議の場で進捗状況の点検を継続して行い、各部署のリーダーに進捗状況を報告し、リーダーより各部署のメンバーに下す体制に変更しました。密をさけ小人数での報告会を行ったことで、各教職員に計画の進捗状況をより深く浸透させることができた。 | 全体会議を除く各分科会議はコロナ禍でも定期的に開催されており、その役割や会議間の連携の整備も進んでいる。 | 社会保険労務士等にも相談しながら、諸規程及び組織の見直し・整備を引き続き進めていく。 | |
| | 2 運営方針に沿った事業計画が策定されているか。 | 4 | 今年度、就業規則、給与規程の見直しをおこないより社会情勢に応じた規程に改訂することができた。 | 昨年度より、教員だけでなく職員も積極的に女性を採用してきたことでこれまで課題であった女子生徒へのケアも行うことができています。また、卒業生を採用する制度がすすんでいるが教員だけでなく、学校運営に必要となる広報の部署にも職員を採用すれば高校でのガイダンスでよりリアルな説明ができ生徒募集の拡大に繋がると思うので是非、検討頂きたい。 | 新卒教員を確実に育成できる様、年齢の近い教職員を育成担当に任命し、校長代行、教頭の協力のもと育成計画を作成し、定期的なレッスン、ロールプレイングを行いながら、早期戦力化を図る。また、同時期に採用できた中途教員からも助言ができる環境づくりも整えていきたい。 | |
| | 3 人事・給与に関する規定等は整備されているか。 | 5 | | | | 学籍管理システム、社内情報システムの導入を進める中で引き続き、教職員の意見も吸い上げながら、使いやすく、目的である業務の効率化につながる様、取組んでいく。 |
| | 4 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。 | 4 | 学籍管理システムを導入して5年目、専任の担当者を配備する余裕は無く、迅速にとは言えないが、順調に進み、効率化や必要書類の整備に取り組んでいる。 | 学籍管理システムの有効活用、ワークフローを使った経費申請などシステムを使った業務を浸透させることにより効率化と見える化を引き続き推奨してもらいたい。 | | |
| | 5 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。 | 4 | | | | |
| | 6 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。 | 4 | 交通費や備品購入の申請をこれまでの紙での申請からワークフローを使った申請に変更し業務の効率化をはかることができた。 | | | |
| | 7 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。 | 4 | | | | |

| 項目 | 評価の項目 | 評価 | 自己評価委員会評価コメント | 学校関係者評価委員会の提言 | 今後の改善策 | |
|--------|---|----|--|---|---|--|
| Ⅲ 教育活動 | 1 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。 | 4 | 即戦力の実現を目指し、常に現場を想定した指導を行いその内容に応じたカリキュラムをベースに、国家試験合格率の向上や生徒募集における生徒(高校生)の嗜好にも気を配りながらカリキュラムの見直しを図っていく。 | 昨年度同様、今年度も、コロナで開催できなかったが、今後必要となるインターンシップ実習授業に際しては、事前の説明会を実施する等、現場責任者の方に目的や具体的な指導法をより明確に伝える必要性を感じた。 | コロナ対策も緩和されるため、新年度は、インターンシップ実習授業を、人数的に少数で取組みやすいプロスタイリスト科を先行させ、参加者・受入先企業の両面において目的や指導・評価等、共通の認識を持って取り組める様に整備を進める。 | |
| | 2 教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。 | 4 | | | | |
| | 3 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。 | 3 | 新型コロナウイルス感染拡大防止対策としておこなったリモート授業により空いた教室を国家試験対象の2年生をランク毎に分散させての小人数指導により効率的に全体の底上げを図るなど工夫をおこなった。 | 国家試験については、生徒の技術の上達に差が生じるため、限られた時間の中でおこなうには工夫して行う必要がある。また、当日の現場の雰囲気や早くから理解させるために試験環境に合わせた動きを日頃の授業でも取り入れていくことが必要である。 | 感染防止を継続しておこないながら、対面授業を中心としたカリキュラムを編成し、リモートにより手薄になっていた実習教育を強化していく。 | |
| | 4 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。 | 4 | | | | |
| | 5 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。 | 4 | | | | |
| | 6 関連分野における実践的な職業教育(インターンシップ・実技・実習等)が体系的に位置づけられているか。 | 3 | 接客授業では、外部関係者から評価を頂き挨拶・立札の実演や接客のロールプレイングを主な実習内容とし授業の目的として、印象や自分の行動について考えられるよう指導をおこなった。 | 現場を離れて長い教員が現状の顧客ニーズ・技術に対応できる様、外部関係者を通じて現場のサロンオーナーとの意見交換会を開催し、即戦力に繋がるための助言を伺ってほしい。また研修等を受講し、お手伝いに終わるのではなく、意義のある研修として位置づけられる様、学校の整備を進めてほしい。 | 学生の就職へのニーズの変化も鑑み、アイラッシュサロン・ブライダルサロン・エステサロン等の新しい連携企業を開拓することが引き続き課題である。学校と隣接した美容室、アイラッシュサロンとの連携により、学生のみならず、教職員が現場の感覚や顧客ニーズへの対応力を養う。 | |
| | 7 授業評価の実施・評価体制はあるか。 | 4 | | | | |
| | 8 職業教育に関する外部関係者からの評価を取り入れているか。 | 5 | 就職先の開拓という面では、特にエステサロンについては、他校と違い理容科生がエステを受講し、業界への就職を志望する者が大半のため、就職先の新規開拓を図っているが、経営の安定性や社保等労働条件を考えると学校として推薦しがたい企業も多く、厳しい面も感じているところではあるが、認知度が高まるにつれて求人件数も徐々に増えつつあり、企業の見極めにも注力していく必要を感じている。 | | | |
| | 9 成績評価、単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。 | 5 | | | | |
| | 10 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。 | 3 | | | | |
| | 11 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。 | 4 | | | | |
| | 12 関連分野における業界等との連携においてすぐれた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか。 | 4 | | | | |
| | 13 関連分野における先端的な知識・技術等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか。 | 3 | | | | |
| | 14 職員の能力開発のための研修等が行われているか。 | 3 | | | | |

| 項目 | 評価の項目 | 評価 | 自己評価委員会評価コメント | 学校関係者評価委員会の提言 | 今後の改善策 |
|---------|---|----|---|---|---|
| IV 学習成果 | 1 就職率の向上が図られているか。 | 5 | 理美容サロンの新規採用の求人もおおくなくてはきたが、スタイリストの求人が多くアイリスト、ネイリストなど美容部員の採用は厳しく求人も少ない状況である。学校として厳しい中でも卒業生全員に対し個別面談、面接練習等の指導をオンラインも活用しておこない今年度も、高い就職率を維持することができた。 | インターンシップ授業やサロン体験、就職内定後の研修等が逆に学生の就職意欲を減退させる場合もあるので、実施にあたっては、サロンとの連携を密にし、内容について十分な検討を心がける。 第1の目標は国家試験の合格だが、選択コースも積極的に受講し理美容に関連した着付けやアイリストの資格にも挑戦してもらいたい。 | コロナ対策が軽減されたことにより就職を控える生徒対象にサロン体験を計画し各店舗と連携を密にしていく。 発足したOB会で定期的に情報発信し学校に対し協力支援をお願いする。特に就職の面で現場の生の声を生徒たちに伝えることができるよう体制づくりを行っていく。 |
| | 2 資格取得率の向上が図られているか。 | 4 | | | |
| | 3 退学率の低減が図られているか。 | 3 | | | |
| | 4 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。 | 3 | 東京で活躍する卒業生による職業講話を実施し生徒に理美容に対する職業観の養成を図るなど卒業生と連携した取り組みをおこなった。 | | |
| | 5 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか。 | 4 | | | |
| V 学生支援 | 1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか。 | 5 | 登校日には、ホームルームの担当教員を日毎に入れ替える等、複数の教員が接することで、学生の変化に気づける様、また教員間の格差を無くす様、工夫している。 | 表だって表現されない学生の心の悩みをいかにつかみ、早期に解決するかが課題。学生が気軽に相談できる仕組みを構築していくことをお願いしたい。 今後の生徒募集という意味合いでも、修学支援制度の対象であるか否かは専門学校に行く未を大きく左右すると思われる。 | 昨年度も進展させることはできなかったが、心理カウンセラーの導入も含め、学生の心理的相談に乗れる仕組みの強化を図る。 前述の「さくら連絡網」の整備を進め、直接相談しにくい悩みにメールで対応する仕組みを整える。 引き続き、学籍管理システムを活用し、卒業生情報の整理に取組む。 修学支援制度、新型コロナウイルスに関連した奨学金等、新たな問合せの増加が予測されるので、事務局だけでなく教員も平易なレベルであれば回答できる様、折に触れ校内の勉強会を開催する。 |
| | 2 学生相談に関する体制は整備されているか。 | 4 | 生徒からの相談については、じっくりと話を聞き、休みがちな生徒には電話での会話を試みるなど常に一人にしない環境づくり体制を教員中心に行っています。また、タイムリーなタイミングで保護者と密に連携できる様、教員間での連携も強化する。 | | |
| | 3 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。 | 4 | 課題活動としてダンスサークルを結成し日々練習に励んでいます。レッスンは外部講師にお願いし今後は大会にも参加し参加生徒のモチベーションアップにむけて取り組んでいます。 | | |
| | 4 学生の健康管理を担う組織体制はあるか。 | 4 | | | |
| | 5 課外活動に対する支援体制は整備されているか。 | 4 | | | |
| | 6 学生の生活環境への支援は行われているか。 | 3 | | | |
| | 7 保護者と適切に連携しているか。 | 5 | 今年度の修学支援制度に基づき、授業料減免及び給付奨学生となった者は年間を通じて106名おり生徒数全体に対する比は約3割弱を占めている。 | | |
| | 8 卒業生への支援体制はあるか。 | 3 | | | |
| | 9 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。 | 4 | | | |
| | 10 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか。 | 3 | | | |

| 項目 | 評価の項目 | 評価 | 自己評価委員会評価コメント | 学校関係者評価委員会の提言 | 今後の改善策 |
|----------------|--|----|--|--|---|
| VI 教育環境 | 1 施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。 | 3 | 備品の入替えなどおこなったがあべのポンテ本校舎は、年数が経過しているため施設に痛みがでているところがある。 | 今後も旅行会社を通じて情報収集に努め、海外研修の挙行には十二分に注意するとともに、参加者の保護者の理解・同意を必ず得て行う 災害発生時の対応訓練は授業の合間でも継続して行ってほしい。また、可能であれば防災関連の備品も準備して頂きたい。 | 設備全般のチェックの機会を設け、優先順位を組みながら、予算組みし、宮繕を実施していく。 |
| | 2 学内外の実習施設・インターンシップ・海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。 | 4 | 今年度も海外研修は中止、代替案として沖繩での平和学習研修を実施した。 | | |
| | 3 防災に対する体制は整備されているか。 | 4 | 阿倍野区にある「あべの防災センター」を視察。地震発生時の避難先、対応を学習する。 | | |
| VII 学生の受入れ募集 | 1 学生募集活動は、適正に行われているか。 | 4 | AO入試等における専各連からの指導を遵守し、適正な学生募集活動を行っている。 | 募集パンフレットだけでは、伝えにくい面があるが、個別相談会なら高校生に学校の特色をより詳しく説明することができるため積極的に取り組んでほしい。 ホームページもリニューアルされたようなのでより多くの生徒に関心をもってもらえるよう広報活動をお願いしたい。 | 周囲の状況を見極めながら、授業料・教材費等の見直しを行っていく。 提言頂いたりリニューアルされたホームページを積極的に活用していく。 |
| | 2 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。 | 4 | コロナ禍により個別相談を積極的におこない学費の説明、当校の理念に基づく授業内容をこれまで以上に伝えることができた。 | | |
| | 3 学納金は妥当なものとなっているか。 | 4 | 今年度は成果発表の場としての校内イベントが開催し生徒のモチベーションをあげることができた。 | | |
| VIII 財務 | 1 長中期的な学校の財務基盤は安定しているといえるか。 | 5 | 財務については会計士の指導のもと専任の担当者により、適切に処理されている。 | 適切・正確な処理を心がける。 | 理事会・評議委員会において予算執行を精査し、健全な財務体制を維持する。 |
| | 2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。 | 4 | | | |
| | 3 財務について会計監査が適正に行われているか。 | 5 | | | |
| | 4 財務情報公開の体制準備はできているか。 | 5 | | | |
| IX 法令等の遵守 | 1 法令・専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか。 | 5 | 個人情報保護の管理を強化する。 | オープンキャンパスやイベントの際の外部からの参加者に対する写真掲載には十分注意を払っていると感じるが、在校生に対しての対応はどうか | 集合研修の難しい状況下ではあるが、折を見てコンプライアンスの研修を行い、より周知徹底する。 学籍管理システムの他、情報システム全般については、管理権限を明確に定めて運用している。 |
| | 2 個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか。 | 4 | ブログ、フェイスブック、インスタグラム等への学生、高校生の指名・写真掲載において事前に許可を取る等、細心の注意を払う様徹底する。 | | |
| | 3 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。 | 4 | ゴミ箱の数を減らし、シュレッターを使用する習慣づけをおこなっている。 | | |
| | 4 自己評価結果を公開しているか。 | 5 | リモート授業が増えることにより通信環境のセキュリティを強化している。 | | |
| X 社会貢献 地域貢献 | 1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。 | 3 | コロナ禍で今年度は実施できていないが、例年は地域への施設の貸出、催しへの参加等、地域への貢献を行っている。 | 地域社会における学校の役割を認識し、積極的にボランティア活動に参加する。 | 公開講座・教育訓練は関連校の西日本ヘアメイクGraduateカレッジで行っているので講師や施設の提供を通じ、協力を図る。 今年度、学校設立20周年であったがコロナ禍により大きな行事は実施しなかったが、令和5年度には社会貢献の行事を検討していきたい。 |
| | 2 学生のボランティア活動を奨励・支援しているか。 | 3 | | | |
| | 3 地域に関する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか。 | 3 | | | |